

健康登山者投稿作品

季節の絵手紙「赤い花」

八王子市 梶谷玲子 様



一步一步煩惱滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

六十四段 怒りは健康を損なうもど

自分の思い通りにならないからといって、いつも怒ってしまうことは体に良くないことです。怒る事でストレスが生まれ、血圧や体温も上昇します。心穏やかにありたいものです。

高尾山薬王院や高幡山金剛寺のように馴染みあるお寺も多くあった。また、この巡拝をしなれば、一足足を踏み入れることのない土地もあった。お不動様の前に座り、御姿を拝し、お経をお唱えしていると、心が静まり、力が抜け、しばらくお不動様の前に佇んでいることが多かった。 関東三十六不動霊場を三巡し、百八ヶ寺巡拝した友人にはアドバイスや励ましを頂いた。いつも笑顔で送り迎えをして応援してくれた妻にも支えられた。お不動様と「同行二人」の旅は楽しい旅であった。

合掌

高尾山 季節散歩

暦の言葉

「七十二候」

「蛙始鳴」

「かはすはじめてなく」 五月五日〜五月十九日頃 カエルの鳴き声を聞くと、初夏の訪れを感じます。この鳴き声は繁殖期によるもので、オスからメスへの求愛行動となります。 薬王院でも、この時期には夜になるとカエルの大合唱が始まり、眠れなくなる場合があります。

今月の風物詩

鯉幟

江戸時代に源流を持つこの風習は、鯉が滝を登ると龍になる「登龍門」という故事に因み、男子の立身出世を願い、庭先に鯉を模した幟が飾られます。 一番上に飾られる吹き流しは、魔除けの意味を持つもので、五行説に基づき「青、赤、黄、白、黒」の五色を使います。

健康登山者投稿作品

関東三十六不動霊場巡り満願

日野市 柴田 利男

昨年のある日、友人が関東三十六不動霊場巡拝を勧めてくれた。高尾山健康登山を続けながら、関東三十六不動霊場を巡拝した。 昨年の平成二十九年は酉歳にあたる。酉歳は不動明王が守り本尊となるため、関東三十六不動霊場では十二年に一度の総開帳となる年であった。 巡拝を始めるにあたり、関東三十六不動霊場のホームページから、お不動様にお経を唱える作法である「勤行次第」を印刷して経本とした。 総開帳ということで、多くのお寺ではお不動様を拝見できた。二月に一番札所の大山寺に参拝した。その後、各寺の不動明王様にお経をお唱えした。神奈川県七ヶ寺を発心の道場として、東京都十九ヶ寺を修行の道場として、埼玉県五ヶ寺を菩提の道場として、千葉県五ヶ寺を涅槃の道場として巡拝し、十月三十一日に成田山新勝寺で満願した。

お護摩修行のすすめ 皆様の諸願成就を祈願する



高尾山では大本堂に於いて、毎日御護摩修行を行っております。 お護摩修行とは、護摩木という特別な薪を大導師が御護摩の炎の中に投入し、あらゆる煩惱を焼き浄めるために行われます。そして、御信徒の皆様が祈りが御本尊様に届けられ、皆様の諸願が成就するという修行であります。 御護摩修行を済ませられた方には、御護摩札が授与されます。 大切にお持ち帰り頂き、お供物と共に自宅等に奉安礼拝して、一心に御宝号「南無飯繩大権現」とお唱え下さい。

苗木奉納

古来より高尾山の御信徒は、自分のお願いが成就した時に感謝とお礼の意味を込めて、苗木を奉納するという習慣がありました。今日でも、お杉苗奉納は続いており、参道の杉原には、一年間掲示される杉苗奉納者の芳名板が、板塀のように並んでおります。

高尾山では寺法において「殺生禁断を第一義に、むやみに草木を切ることを厳しく戒めてきました。私達は信仰心と共に大自然を守り、また大自然から守られつつ、共存共栄し、本日の景観を造りあげてきたという事を、忘れてはならないと思います。 尚、毎年十二月十日までに、一万円以上を御奉納頂いた方のお名前を、翌年より掲示させて頂いております。

東京寿講 登拝百周年

去る四月八日、東京寿講の講員約八十名の皆様が、本年度百回目となる高尾山参拝に来山されました。講元は北島義久様で七代目講元となります。大正八年八月に講中を設立されて以来、渋谷区広尾地区や港区麻布地区を中心に講員を募って続けられてきました。 当日は御護摩修行に参列された後に、二班に分かれて記念撮影を行い、食事会場の有喜閣大広間において菅谷執事長より、百回目を記念する表彰状や、世話人の方々へ感謝状が贈られました。お食事の席では、講員の方々による日本舞踊やカラオケ等の多数の出し物が催され、盛大に賑わってまいりました。



客殿大玄関前での記念撮影

